障害者多目的事業所

「西陣工房」ご案内

所在地　〒603－8333
京都市北区大将軍東鷹司町109番地の1
障害者多機能型事業所　西陣工房
電話075－462－9101　FAX075－468－9122

運営法人　社会福祉法人京都西陣福祉会

西陣工房の概要

【施設の種類】　障害福祉サービス 多機能型事業所
★就労継続支援Ｂ型事業所　定員４０名
★生活介護事業所　定員１０名
現在利用者３５名　内２９名が知的障害者

【所在地】　〒６０３－８３３３
京都市北区大将軍東鷹司町109番地の1　土地面積　６５４．４６平米
鉄筋コンクリート３階建て　延床面積　９１７．８５平米

【作業内容】伝福連携の実践としての西陣織（手機、糸繰り、整経）
京組紐、組紐体験（手組み紐によるストラップ作り）

【運営主体】社会福祉法人 京都西陣福祉会

令和3年3月27日竣工

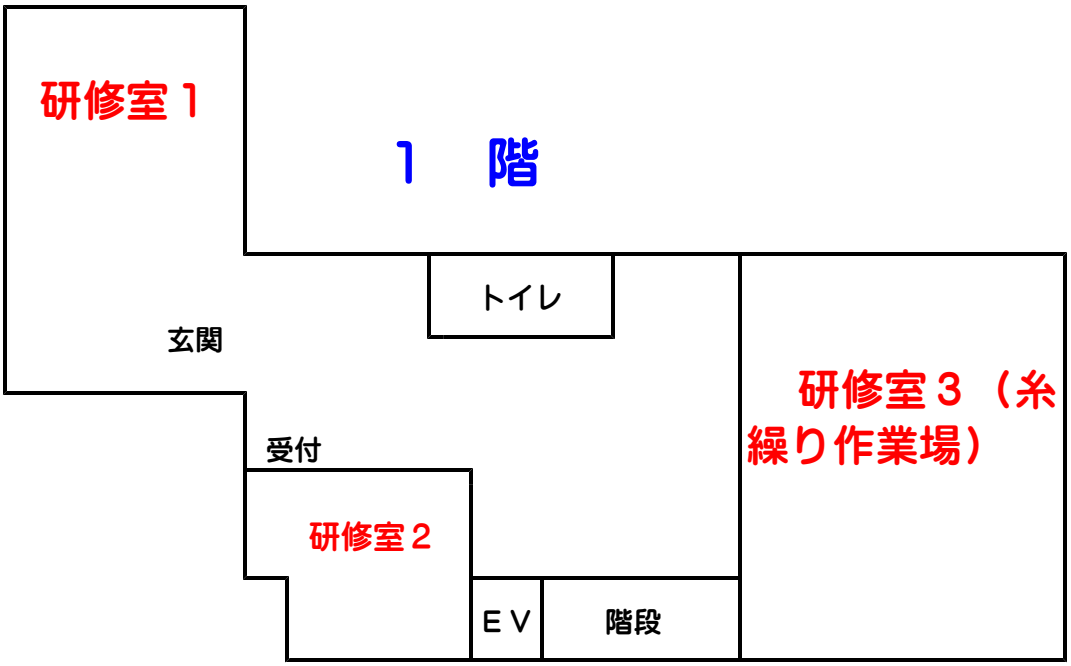
社会福祉法人　京都西陣福祉会　経営理念

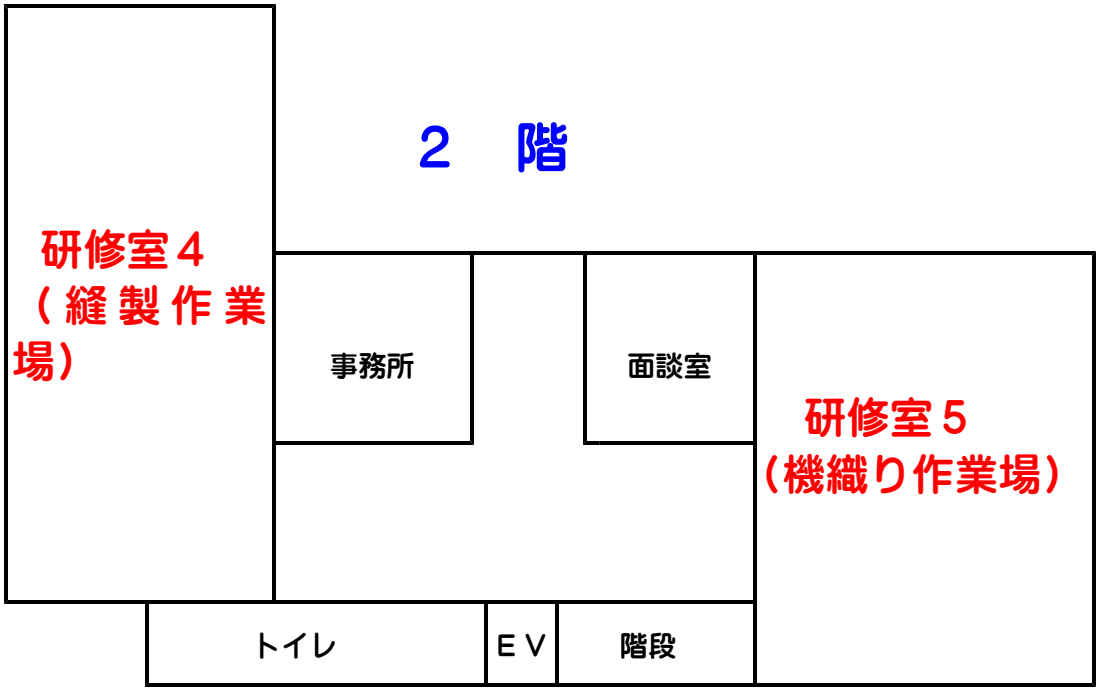
１．利用する障害者がその持てる能力を最大限発揮し、社会が求める水準の仕事が提供できるよう使命感を持って取り組み、常に独創性、創造性を発揮して事業を推進します。

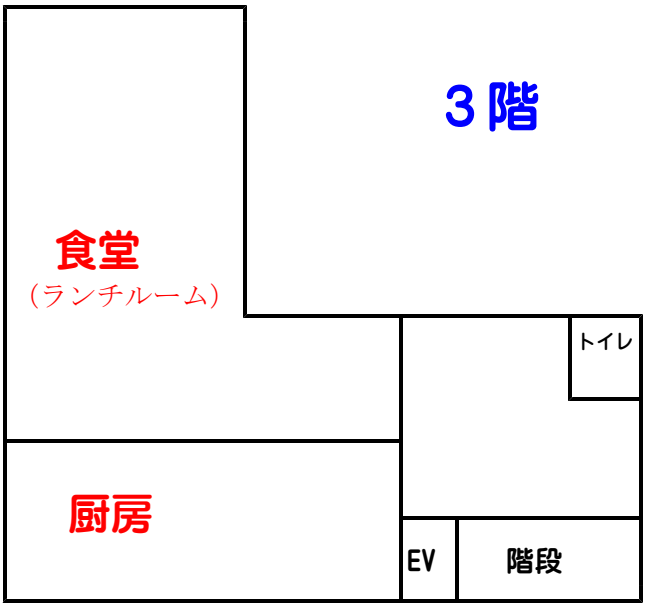
２．「伝福連携」を進め、地元伝統産業に貢献することで地域の伝統に根ざした市場価値の高いものづくりを行い、地元企業や地域住民からの絶大なる信頼を得て理想的な「地域共生」を目指します。

３．卓球バレーやウクレレアンサンブル、合宿などの集団活動を推進してそのレベルアップに努めることで、利用者が主体性や社会性を身に付けることを重視すると共に、常に障害者国体など、ハイレベルな大会での入賞を目指すことで利用者に夢と希望を与えます。

館 内 略 図


研修室１
１　階
トイレ
玄関
研修室３（糸繰り作業場）
受付
研修室２
ＥＶ
階段


２　階
研修室４（縫製作業場）
事務所
面談室
研修室５（機織り作業場）
トイレ
ＥＶ
階段



ランチルーム

西陣工房では京都府の補助を受けて京都府産の檜木材を使ったテーブルと椅子を使用しています

障害者多機能型事業所　西陣工房　作業内容

障害者には、無限の潜在能力があります。その潜在能力を引き出すのが施設の使命であります。それゆえ、施設でどんな作業を実施するかが極めて重要です。西陣工房では「伝福連携」を掲げて伝統産業を下支えするため次の作業を行っています。

１．糸繰り作業

糸繰りは西陣織の１工程です。かつては西陣地域の民家で「ぜんまい」（糸繰り機）を設置して、従事する「糸繰りさん」が多数存在していましたが、平成に入って徐々に高齢化し、多数が廃業されました。そのほとんどに後継者が無かったことで生産力が大きく落ち込み、将来のその存続が危ぶまれるようになりました。そうした課題を見通して、西陣工房では開所以来、糸繰りに取り組み、「伝福連携」を実践して年々実績を高めてきました。今では200錘以上が稼働する西陣最大規模の糸繰り工場として、業界から大きな信頼を得て生産に励んでいます。

２．機織り作業

西陣織の真髄とも言える、ジャガードを搭載した手織機を使って絹の生地に模様、絵画、文字などを織り込む機織り作業です。3000本～15000本もの経糸に、10種類ほどの多彩な色の緯糸を操って、色鮮やかな西陣織を織り上げます。さらには、ジャガードを搭載しない機や、さをり機なども使って、西陣織では無いジャ

ンルの織物も織っています。

３．縫製・クラフト作業

織り上がった生地を製品にするためにはさらにいろいろな手間が必要です。その中心になるのが縫製作業です。そして効率よく縫製するための前処理、仕上げ、さらには関連する軽作業などに取り組んでいます。

４．組紐作業

丸台、角台、高台を使った各種組紐製品を生産しています。また、修学旅行生などに対する体験教室も、障害者に教えてもらう体験教室として好評です。

西陣工房と伝福連携

就労継続支援Ｂ型事業所などの障害者が働く施設では、ものづくりに取り組むケースが多いのですが、一般的に求められているのは

１．受注が安定していて、１年中継続して従事できる仕事
２．手先が不自由な人、不器用な人でも取り組める仕事と共に、やりがいがあり、少し難しくても高い工賃が得られる仕事
　＊しかし、さらに志の高い施設では
３．産業とのつながりがあり、キャリアアップできる奥の深い仕事
４．一生誇りを持って従事できる仕事
５．地域経済に貢献できて、ハイレベルな地域共生が実現できる仕事
　＊にも取り組んで、楽しく仕事をして、高い工賃を実現しています。

西陣工房は知的障害者が多い施設ですが、知的障害者の場合、ほとんどの人が文字の読み書きや計算が苦手です。しかしゲームが上手だったり、手先の器用な人は結構います。すなわち、論理的思考能力や計算能力を苦手としている人が多いけれど、反射的、感覚的な動きを得意としている人がたくさんいます。それを、仕事に例えると、事務や営業には向かないが、手仕事に向いている人が多いと言えます。

いろんな仕事をしているのですが　（西陣工房　さをり織り）

手仕事と言えば、伝統産業。京都は伝統産業の宝庫であり、京都市が指定する伝統産業は７４あり、その内、国が法律で伝統的工芸品と指定しているものが１７あります。その中で日本を代表するのが地元伝統産業である西陣織です。

伝統産業はここ３０年近くに及ぶデフレによる日本人の所得の減少、グローバル化による日本文化軽視の社会情勢と海外製の安い類似品の輸入等により需要を大きく減らしてきました。そしてコロナによる大不況が追い打ちをかけており、現在、その減少に歯止めがかかる兆しは全くありません。

その結果、需要減少、売上減少、機械道具類の枯渇、新規雇用の見送り、従事者の高齢化、後継者難という悪循環に陥り、先人により長年育まれてきたかけがえのない日本文化の象徴とも言える伝統産業の多くが今や絶滅の危機に瀕しているのです。

かつては京都経済を支えた西陣織も同様で、需要の減少による売上減少に見舞われ、産地を維持するための後継者さえ不足し、深刻な事態となっています。西陣工房はそこに着目し、利用者の仕事の力量を高め、その後継者を目指して努力して来ました。

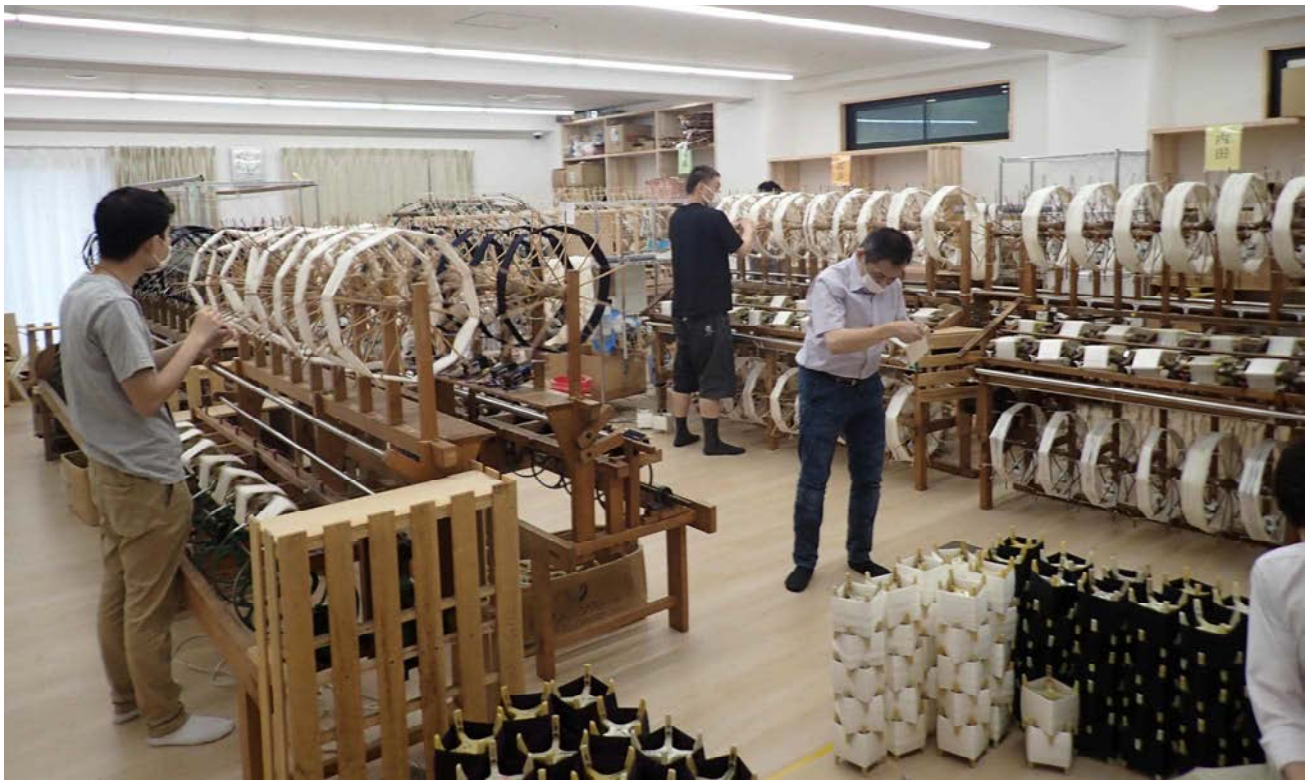
先にも述べたように、障害者施設ではやりがいがあって工賃の高い仕事を求めています。障害者施設に技術さえあれば、絶滅の危機に瀕している伝統産業の後継者として、障害者が伝統産業を担う一員となることは可能です。

手仕事は得意です。900口のジャガード搭載の手機を駆使して紋織りをしています（西陣工房　手織り）

西陣工房は平成１６年の開所以来、利用者の能力向上のため、様々な取り組みをしてきました。

伝福連携とは障害者施設が伝統産業の仕事を請け負って業界の一事業所としての存在感を示すことです。そのためには、業界が期待する技術を障害者施設が有し、納期もきちんと守ることで信頼を得て、良好な関係を作らなければなりません。その結果、障害者のための福祉施策である西陣工房のような就労支援事業所が伝統産業の担い手となり後継者問題の解決に大きく貢献することができます。

この実現のためには、障害者施設が伝統産業の技術を持たなければなりません。施設の自助努力に加えて業界、行政の協力を得て職員が技術を獲得しなければなりません。さらに、利用者のレベルアップが必要です。鉄は熱いうちに打ての格言通り、高校一年生から、総合支援学校のワークの時間に伝統産業を導入するなどして、希望する生徒が卒業までにきちんとした基礎技術を習得できれば、伝福連携を大きく進めることができます。課題は明確です。そしてこれはオール京都市で取り組めばさほど難しい問題とは思えません。



17年前に細々と始めた糸繰り　今では西陣最大の規模になっています　（西陣工房　糸繰り）

障害者が生涯誇りを持って働き、人間として成長するために、一般就労一辺倒では無く、こうした伝統産業を担う職人として生きるための制度の整備を切に願うものです。

卓球バレー全スポ大会10連覇達成　R1.6.16　島津アリーナにて

保護者も一緒のウクレレ、コーラスの舞台

真夏の１日、大汗をかいて　みんなと一緒にハイキング　R3.8.29　将軍塚にて